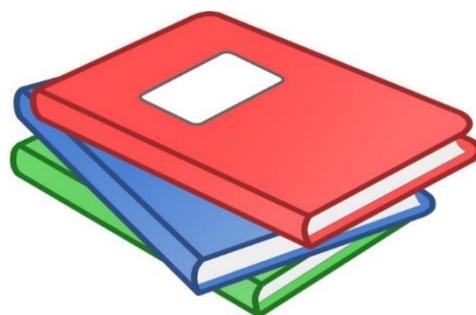


令和6年度
第1回 進路説明会資料



令和6年6月7日（金）

文京区立第九中学校

1. はじめに	P.1
2. 昨年度以前からの大きな変更点	P.1
3. 進路指導を進めるにあたって	P.2
4. みなさんが今、取り組むべきこと	P.2~3
5. 保護者の皆さまに心がけていただきたいこと	P.3
6. 進路を考えるときに	P.4
7. 高等学校の分類	P.5~9

多様なタイプの都立高校

- (1) 特色ある教育活動を行う学校
- (2) 専門高校（職業学科）
- (3) 多様なタイプの高校
- (4) コースを設置する普通科高校

★高等専門学校、その他について

8. 都立高校入学者選抜及び私立学校入学試験について	P.10~12
(1) 都立高校		
(2) 私立高校		

◆推薦を利用する際の留意事項

9. 学校説明会・見学会・公開授業・体験入学について	P.13
10. 奨学金制度	P.13~14

私立高校の学費負担軽減制度のお知らせ

11. 今年度の入試日程について	P.15~17
12. 進路年間計画	P.17
進路希望調査サンプル	P.18~20
推薦願サンプル	P.21~22
併願優遇受験願サンプル	P.23

1. はじめに（進路選択の基本的な考え方）

①自分の個性・適性を考える ②保護者と共に考える ③将来の職業を考える

中学校生活も最後の一年となり、いよいよ卒業後の進路を選択していくことになります。中学校を卒業するという事は、義務教育のすべてを修了し、社会人としての第一歩を踏み出すということです。そして、卒業後の進路を考えるということは、自分を見つめ、「これからどのようにして生きていくか」ということを具体的に考えるということです。ですから、進路選択にあたっては、自分自身の問題として自分の個性・適正を考えて、自らの意思と責任において決定していかなければなりません。

しかし、それはおそらく人生で初めての決断で、いろいろと悩むことや、思いどおりにいかなくて不安になることも多いと思います。自分の実力の程度や現実の厳しさを知らされるという試練にも直面しなければなりません。そんなときに、保護者の皆様にはご家庭で、学校では私たち教職員が支えていけたらと考えております。子どもたちがそれぞれの進路を意欲的に選択していけるよう、共に考え、話し合い、子どもたちを見守っていきましょう。

また、「進学=進路」と考えがちですが、進路は、「自分の進みたい道」「その行き着く先は職業」「社会への参加」「社会への貢献」そして、「自分を生かすこと」ではないでしょうか。『今』と『職業』を結ぶ線の上の一つのチェックポイントが、中学校卒業前の進路選択と考えたいと思います。

子どもたちが将来に夢をもち、それぞれに目標を定め、それに向けての努力の一步を着実に踏み出す年であってほしいと願っています。

2. 昨年度以前からの大きな変更点

① ESAT-J（英語スピーキングテスト）について

ESAT-Jは、中学校の授業で身に付けた英語の「話すこと」の力を測るためのスピーキングテストです。東京都教育委員会では、「グローバル人材育成指針」の下、小・中・高校で一貫した英語教育の推進により、生徒の「使える英語力」の育成を目指しています。今年度は昨年度までと運営会社が変わりました。今年の3月に概要とサンプル問題が東京都教育委員会のHPにアップされましたので、併せてご確認ください。右記二次元コードよりHPにアクセス可能です。



7月上旬（昨年度は7月6日より）に受験者登録を行うこととなりますので、時期が来ましたら確実に受験者登録をよろしく願いいたします。また、特別な処置が必要な生徒の申請も同時期に行われますので、ご希望がございましたら、早めにご相談ください。

② 男女合同定員について

都立高校は近年まで男女別で定員を設定している学校が多くありましたが、令和6年度入試より、男女別定員は撤廃となり、都立高校全校が男女合同定員での募集となりました。それに伴い、男女別の志願者数や合格者数は発表されていないため、昨年度の入試で男女合同定員がどのような影響を与えているかは分かりませんが、例年女子が高倍率となっている三田高校が一般推薦選抜で調査書の比率を大きく下げたように、一般推薦選抜での選抜内容や比率の見直す学校があるかもしれません。選抜内容が確認されたら、早めに内容を確認するようにしてください。

③ 都立高校のネット出願について

令和5年度入試より、都立高校全校でインターネットを活用した出願方法へと変更になりました。12月下旬から設定されている入力期間中に、インターネット上の出願サイトに志願者情報等を入力していただく形となります。それに伴い、入学考査料のお支払いは出願サイト上での決済が選択できるようになりました。調査書等の書類は学校から郵送する形で以前から変更はございません。なお、分割後期募集、第二次募集はネット出願ではなく、高校に出願書類を持参する形となります。

また、これまで手書きで記入し提出してきた自己PRカードは、Wordファイルで入力しても良いことになりました。

3. 進路指導を進めるにあたって

① 志望先の決定には、生徒・保護者の考えが重要です。

学級担任は、進路選択について様々な資料を提供し、アドバイスします。時には厳しいことも伝えるかもしれませんが、しかし、決定者ではありません。「どこでもいいですから、先生が決めてください」と言われたとしても、決めることはできません。あらゆる検討をした後、最終決定は、本人と保護者の方が行うこととなります。なかでも本人の意志が最も重要です。

② 毎日の学校での授業を大切にしましょう。

授業の1時間分は家庭学習の4時間分に匹敵するとも言われます。毎日の学習の積み重ねが、学力向上と充実につながります。公立高校の入学試験は、授業、つまり教科書の範囲からの出題となります。授業をしっかりと受けて、それに対する予習復習をすれば、それだけで受験勉強をしていることとなります。授業中に居眠り、内職などをして、貴重な授業を無駄にすることがないようにしましょう。かつて入試間近になると、学校を休んで自宅学習をしているという人がいたようですが、授業を最後まで受けられてこそ、その先に進学が待っているということを忘れないでください。

また、塾の宿題に追われ学校の授業や提出物が疎かになっては本末転倒です。行くからには学校のことをきちんとやり、さらに塾でそれなりのものを身に付けてください。

③ 情報を正確に受け取り、的確な対応が大切です。

都立高校にも、私立高校にも推薦制度や一般入試制度がありますが、それぞれ基準や方法はさまざまです。受験に関しては、多くの情報が発信されます。不確かな情報に左右されず、それぞれの立場で情報を正確に受け止め、判断できるように、家庭との連絡を密にしていきます。

また、進路選択は、第一志望の学校のことだけを考えれば良いわけではありません。第二志望の学校はどんな学校かをきちんと知り、自分がそこへ通うことになっても「頑張れる」という学校を選びましょう。「滑り止め」という考えは止め、「第二志望」と誇りをもって言いましょ。自分の第二志望校は友だちの第一志望校かも知れないということも頭の隅に置いておきましょう。

④ 進路相談は遠慮なくどうぞ。

相談や連絡等の直接の窓口は学級担任ですが、進路指導は、学年全体で進めていきます。決定までの相談に、遠慮はいりません。本人の希望、適性、学力等、総合的に分析し、本人、保護者の方とは異なる視点からのアドバイスもしていきます。「こんなことを相談したら…」「どんな風に思われるだろう」という心配はありません。学校と家庭の信頼関係を築きながら進めていきたいと考えます。

4. みなさんが今、取り組むべきこと

① 自分自身を知り目標を立てること。

- ・まず、「自分自身」についてよく考えてください。好きなことや興味・関心、学習の得意不得意、適性、性格、身体の状態など、自分自身について知りましょう。
- ・どんな教科の勉強をしたいか、また、将来どんな職業に就きたいか、「なぜ」進学・就職するのか、将来の進路の流れを考えてみましょう。
- ・希望する進路先と自分の適性をつき合わせ判断しましょう。
- ・家族や家庭など自分のまわりの条件を考えましょう。

② 自身の生活を振り返る。

- ・服装、行動等、学校のきまりをしっかりと守りましょう。入試直前だけしっかりやるのではなく、普段からしっかりやっていたら、試験のときに慌てることはありません。
- ・普段の学校生活のなかでの自分の役割を果たし、学習に取り組める環境をつくりましょう。
- ・時間を守り、大切にしていける習慣を身に付けましょう。遅刻や予鈴後登校しないように心がけましょう。
- ・健康管理をしっかり行い、身体を鍛え、体力をつけましょう。
- ・人との接し方やことば遣いに気を配り、自分自身も周りの人も気持ちよく生活できるようにしましょう。
- ・最上級生として委員会活動や当番活動などに真面目に取り組みましょう。
- ・最上級生として学校行事や学年行事に一生懸命取り組みましょう。

③ 家庭学習を今まで以上に努力する。

- ・根気強く努力を続けていけば、必ず大きな成果になることを信じましょう。
- ・授業に集中して取り組みましょう。
- ・少なくとも毎日最低3時間程度は家庭学習をする習慣をつけましょう。
- ・提出物を期日までにしっかり出しましょう。
- ・各授業でおこなわれる小テスト等の学習も手を抜かず全力で取り組みましょう。
- ・1、2年の総復習を早めに行い、夏休み中には一通り終わらせましょう。
- ・1年間の全体的な学習計画を立てましょう。夏休みは特に大切なのでしっかり学習計画を立てましょう。

④ 進路についての情報をできるだけ多く得る。

- ・上級学校などについて積極的に自分で調べましょう。
- ・上級学校などに実際に行ってみましょう。説明会・体験入学・授業参観や文化祭などの行事を利用しましょう。
- ・上級学校からの配布物や廊下に貼ってある掲示物などの情報に注意を払いましょう。
- ・いろいろな人から積極的に話を聞きましょう。

5. 保護者の皆さまに心がけていただきたいこと

① 親子の話し合いを大切にしましょう。

- ・お子さまの考えを聞いた上で、親としての願いや家庭の事情をきちんと伝えてください。
- ・お子さまの良い点や適性を見つけ、励ましてください。
- ・お子さまの良き相談相手になってあげてください。
- ・「自分の意志で決める」ということがこれから進路選択をしていく上での生活への意欲につながります。

② 学校と家庭との関係を密にしましょう。

- ・学校からのプリント類は、必ず確認してください。進路希望調査や入試関係のプリント等、今後ご記入、提出していただくものが増えてきますので、早めのご提出をお願い致します。
- ・三者面談の時だけでなく、何かご心配なことがありましたら、担任に早めにご相談ください。

③ 学校は自分の目で確かめさせてください。

- ・世間の評判や今までのイメージではなく、直接学校を訪問して、自分の目で見て検討の上、総合的に考えるようにしてください。
- ・上級学校の入試説明会や見学会、個別相談などには、できるだけ保護者の方も一緒に行ってください。

6. 進路を考えるとときに

① 将来どのような職業に就こうとしているか。

- ・自分の興味関心がどこにあるのか、どのような職業に就くのが良いか、自分の考えをまとめましょう。
- ・自分の考えに対する保護者や先生の意見はどうか。客観的に見た適性や能力などから、より広い視野に立ってどんな仕事に向いているか検討してみましょう。

② 希望する職業に就くためには、どのような進路を選べばよいか。

- ・それぞれの職業に就くためにはどのような進路をとったらよいでしょう。また、どのような資格や能力が必要になるでしょう。
- ・中学校を卒業すると、どのような進路がひらけてくるのでしょうか。
 - ☆働きながら技能を身に付ける。・・・・・・・・・・・・・・・・・・就職
 - ☆短期間で技能を習得した後、職に就く。・・・・・・・・・・・・・・・・・・職業能力開発センター
 - ☆専門的な知識や技能の習得にウエイトが大きい学校に入る。・・・・専修学校
 - ☆働きながら高校卒業の資格を得る。・・・・・・・・・・・・・・・・・・就職+定時制高校
就職+通信制高校
 - ☆進学し、技能に重点をおいた学習をする。・・・・・・・・・・・・・・・・・・専門学科高校
高等専門学校
 - ☆広く各分野の学習をした後で、次の進路を考える。・・・・・・・・・・普通科高校
(コース制を含む)

大学

③ 一学期中に大まかな進路希望を考え、決めておく。

- ・学校名までは決まらなくても、進学か就職か、都立高校か私立高校か、普通科か専門学科か、までは決めておきましょう。第一志望が都立学校であれば5教科の基礎をしっかりと固める学習をする、私立学校であれば3教科の応用力をつける学習をするなど、夏休み中の学習にも目標を定めて合理的に取り組むことができます。
- ・6月、10月、11月の3回、進路希望調査を行います。最終的には受験校や就職先を12月の三者面談で決めることとなります。

④ 自分の適性、実力を率直に見つめ、進路の情報や知識をいろいろな角度から検討して進路を考える。

- ・中間・期末考査の成績、通知表、学校で行う領域診断テスト、外部で行う会場テスト（模擬試験）の結果、そして担任の先生との相談などから自分の成績を確かめましょう。
- ・志望する学校の情報（場所、校風、施設、カリキュラム、部活動、卒業後の進路など）をよく調べましょう。
 - ☆校風が自分に合っているか。特に私立高校の場合は重要。
 - ☆男子校か、女子校か、男女共学か、生徒の様子はどうか。
 - ☆卒業生の進学率、大学への優先入学の有無、就職はどうかなど。
- ・出願方法、入学試験の日時や科目、面接試験の有無、合格発表、入学の手続きなどを調べましょう。

7. 高等学校の分類

○ 設置者によって

① 国立

- ・国立高校は、その使命が「教育学に関する教育・実験に協力する」ことであるため、先進的な授業や研究授業が多いです。入学試験日、試験内容などは各校で異なります。

筑波大学附属（共学）、筑波大学附属駒場（男子）、お茶の水大学附属（女子）、 東京学芸大学附属（共学）、東京工業大学附属科学技術（共学）、東京芸術大学附属音楽（共学） 東京工業高等専門学校（共学）

② 都立

- ・都内全域にあり、都内に在住していればどの学校でも受検できます。

③ 私立

- ・独自の教育理念に基づいた教育が行われています。
- ・男子校、女子校、男女別学の学校、男女共学の学校があります。

○ 時間帯によって

① 全日制

- ・平日の朝登校して、夕方まで授業を受けます。
- ・修業年限は3年です。

② 定時制

- ・ある一定の時間にまとめて授業を受けます。
- ・修業年限は3年以上で、4年の場合が多いです。
- ・夜間だけでなく、午前や午後の部も設けた単位制の「昼夜間定時制高校」もあります。

③ 通信制

- ・普段は郵送される教材や放送などを使って、自宅で学習します。
- ・レポート提出と期間を限定して学校で授業を受ける“スクーリング”などで単位を認定して卒業します。

○ 単位の取得方法によって

① 学年制

- ・学年により、それぞれの取得しなければならない単位（授業）が決められています。
- ・その学年に必要な単位が取れないと、進級できません。多くの高校は学年制です。

② 単位制

- ・用意された科目の中から、自分に合った科目を選び、単位を積み上げていきます。
- ・入学から卒業までに決められた単位数を修得すれば卒業できる制度です。

○ 教育内容によって

① 普通科

- ・普通科目を教育します。
- ・コース制を設けているところもあります。（語学、情報、美術など）

② 専門学科

- ・農業、工業、科学技術、商業、ビジネスコミュニケーション、情報、産業、家庭、福祉、芸術、体育、国際などについて専門的な知識や技術を学びます。

③ 総合学科

- ・普通科目と専門科目の両方の中から、自分に合った科目を選択し、系統的、専門的に学習します。

★多様なタイプの都立高校

(1) 特色ある教育活動を行う学校（昨年度もしくは一昨年度の状況）

① 進学指導重点校

- ・難関国立大学や国公立大学医学部への進学を実現するために必要な学習に取り組む学校です。
[日比谷・西・国立・八王子東・戸山・青山・立川]

② 進学指導特別推進校

- ・国公立大学や難関私立大学等への進学を実現するために必要な学習に取り組む学校です。
[小山台・駒場・新宿・町田・国分寺・国際・小松川]

③ 進学指導推進校

- ・生徒の進学希望を実現するため、優れた教育活動を実践するとともに、生徒の着実な学力の伸張を図り、進学実績の向上に取り組んでいる学校です。
[三田・豊多摩・竹早・北園・墨田川・城東・江北・江戸川・上野など]

④ 進学指導研究校

- ・教科指導及び進学指導の実践力を高めるための研究協議を深めるとともに、生徒の進学希望を実現するための教育活動を積極的に行う学校です。
[広尾・向丘・美原・芦花・雪谷・田園調布・目黒・文京・飛鳥など]

⑤ スキルアップ推進校

- ・進路が多様な普通科高校において、民間事業者等を活用した講座等を開催し、これを受講することで実社会や進学先等で役立つ実践的なスキル(使える英語力・社会人として必要なデジタルスキル・職場体験を通じたビジネスマナーやコミュニケーションスキル)を習得できる学校です。
[大森・鎌田・深沢・板橋有徳・田柄・光丘・青井・足立東など]

⑥ 理数研究校

- ・理数に興味をもつ生徒の裾野を広げるとともに、都立高校における特色ある教育活動を積極的に行う学校です。
[竹早・六本木・向丘・小松川・本所・西・田園調布・新宿・駒場・北園など]

⑦ チーム・メディカル

- ・入学時に、医学部への進学を希望する生徒同士でクラス横断的なチームを結成し、互いに切磋琢磨し支え合いながら、希望の実現に向けて取り組むプログラムです。
[戸山]

⑧ 地域探究推進校

- ・探究的な学びを通じて、地域の課題を発見しその解決を図ることによって、新しい時代に求められる資質・能力を育み、将来、地域で活躍する人材の育成を目指す学校です。
[篠崎・第一商業・町田総合・八王子北・八王子拓真・五日市]

⑨ Global Education Network20 (GE-NET20)

- ・東京グローバル人材育成指針に基づく先進的な取り組みを推進する学校です。将来、国際社会の様々な分野・組織で活躍できる人材の育成に資する取り組みを進めます。
[日比谷・深川・西・富山・八王子東・武蔵野北・三田・国際・飛鳥・小平など]

⑩ 英語教育推進校

- ・生徒の「使える英語力」の向上を図ることを目指して、各学校が、英語の授業を英語で行うことや、授業の中で生徒が英語を使う場を充実させるなどの取り組みを推進する学校です。
[江北・青山・竹早・上野・城東・小松川・小岩・杉並・小山台・田園調布・駒場・目黒・新宿など]

(2) 専門高校（職業学科）

① 農業

- ・農業に関する学科を設置する高校の充実した施設・設備と、緑豊かな自然環境の中で学んだ知識や技術を生かし、農業分野のスペシャリストを目指す学校です。

[園芸・農芸・農産・農業・瑞穂農芸など]

② 工業

- ・機械工作やロボット製作、電気工事や製図・測量などの実習を通じて「ものづくり」に必要な知識・技能の習得や資格の取得を目指す学校です。

[工芸・蔵前工科・墨田工科・総合工科など]

③ 工業（デュアルシステム）

- ・一定の期間、授業の一部として企業で「働く訓練」を行うシステムです。

[六郷工科・葛西工科・多摩工科]

④ 科学技術

- ・机上の学習だけではなく豊富な実験や研究を通じて科学技術を学びながら、理系大学などへの進学を目指す進学型の専門学科です

[科学技術・多摩科学技術]

⑤ ビジネス・商業

- ・充実した施設を使用した簿記やコンピュータなど専門分野の学習に加え、東京都独自の学校設定科目「ビジネスアイデア」などで企業と連携してビジネスを実地に学ぶ機会を設け、創造的な能力と実践的な態度を身に付ける学校です。

[芝商業・江東商業・第三商業・第一商業など]

⑥ ビジネスコミュニケーション

- ・ビジネスに関して必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得し、将来、国際社会で活躍するスペシャリストを育成するために、大学等に進学し、継続して学習することを前提とした学校です。

[千早・大田桜台]

⑦ 情報

- ・アプリ・ソフトウェアの制作やプログラミング、画像処理など、コンピュータを利用した様々な仕事に必要な知識と技術を学習する学校です。

[新宿山吹]

⑧ 産業

- ・ものの生産から流通、消費に至るまでの過程全般を学ぶことにより、産業界全体を見渡せる力を身に付け、広い視野をもった将来の起業家や自営業の後継者の育成を目指す学校です。

[橋・八王子桑志]

⑨ 家庭

- ・将来の栄養士、保育士、デザイナー等になるための基礎・基本を学ぶ学校です。

[忍岡・農業・瑞穂農芸・赤羽北桜など]

⑩ 福祉

- ・生命の尊さを真摯に学び、人間尊重の精神をしっかりと身に付け、共生の視点で社会の援助者として行動できる資質及び心を養う学校です。

[野津田・赤羽北桜]

⑪ 水産（海洋国際）

- ・海洋に対する真摯な姿勢と態度を常に持ち続け、「誠実・礼節・協力」の精神の下、豊かさと幸福を世界にもたらし続ける広大な海洋を舞台に活躍する人材の育成を目指す学校です。

[大島海洋国際]

(3) 多様なタイプの高校

① 総合学科

- ・国語や理科などの普通科目から工業や商業、情報や美術などの専門科目まで、自分の興味・関心や進路希望に応じて幅広く選べる学科です。

[晴海総合・つばさ総合・杉並総合・葛飾総合・世田谷総合・王子総合など]

② 国際関係に関する学科

- ・国際理解教育や英語などの外国語教育を通して、国際社会で活躍できる人材を育成する学科です。

[国際]

③ 理数に関する学科

- ・理数系分野の素質育成に重点を置きながら、幅広い教養を習得させ、将来、新しい価値を生み出すことのできる人材の育成を目指します。[科学技術（創造理数科）・立川（創造理数科）]

④ 芸術に関する学科

- ・音楽、美術、舞台表現に関する専門科目の学習を行うことにより、感性と表現力を身に付け、将来にわたって芸術の発展に寄与する人材の育成を目指します。[総合芸術]

⑤ 体育に関する学科

- ・体育・スポーツに関する専門科目の学習を行うことにより、保健体育に関する知識・技能を身に付けます。共通科目の他に、学校によりバレーボール、バスケットボール、サッカー、体操、陸上、水泳、柔道、剣道などの専攻に分かれた専門の学習を行います。[駒場・野津田]

⑥ チャレンジスクール

- ・これまで能力や適性を十分に生かしきれなかった生徒が、自分の目標を見つけ、それに向かってチャレンジするための学校です。
- ・昼夜間定時制で午前からも学べる三部制の単位制総合学科の学校です。
- ・4年間かけて学ぶことを基本としますが、他部の科目の履修により、3年間での卒業も可能です。
- ・学力検査や中学校からの調査書によらず、生徒の学習意欲を重視して、入学者選抜を行います。

[桐ヶ丘・世田谷泉・大江戸・六本木・稔ヶ丘・小台橋]

⑦ エンカレッジスクール（encourage とは「励ます」「力づける」を意味します）

- ・基礎・基本を重視した教育をする学校です。
- ・入試には学力検査がありません。
- ・30分授業・少人数制・2人担任制などの特徴があります。

[足立東・秋留台・練馬工業・蒲田・東村山・中野工業]

⑧ 昼夜間定時制高校

- ・自分のライフスタイルや学習のペースに合わせて、午前・午後・夜間の三つの部の中から選んで入学する定時制・単位制・三部制の普通科高校です。（新宿山吹高校は四部制で、情報科も設置しています。）[一橋・浅草・荻窪・八王子拓真・新宿山吹・砂川]

(4) コースを設置する普通科高校

- ・特定の科目について1年次から、英語や美術など好きな科目を重点的に学ぶことができます。

片倉〔造形美術コース〕 深川・松が谷・小平〔外国語コース〕

詳しくは、東京都教育委員会から近日配布予定の冊子
「令和7年度 東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ」をご覧ください。
また、学年だよりでも最新の進路情報をお届けしていく予定です！

★高等専門学校、その他について

① 高等専門学校

- ・5年間にわたり深く専門教育を行い、高度な専門知識と実践的な能力を身に付けることができる、技術者を育成する学校です。
- ・修了後は、短期大学卒業と同等の「準学士」の資格が得られ、大学3年次への編入学制度もあります。
- ・都立では産業技術高等専門学校、国立では東京工業高等専門学校、私立ではサレジオ高等専門学校などがあります。

② サポート校

- ・学習面・生活面での支援（サポート）をする民間の教育施設です。高校卒業資格を得られる学校ではないので、「通信制高校」に籍を置きながら「サポート校」に通学して、高校卒業資格の取得を目指す人が多いです。

③ 高等専修学校

- ・社会に出て仕事するために必要な技術や知識を身に付けることを目的とした学校です。
- ・中学校を卒業して進む課程（高等課程）と、高校を卒業してから進む課程（専門課程）と社会人向けの課程（一般課程）の3つに分かれています。
- ・理容・美容関係、調理・製菓関係、服飾・家政関係、文化・教育関係、工業関係、商業実務関係などがあります。
- ・「通信制高校」とタイアップしている場合は、高校卒業資格を取ることもできます。
- ・卒業後は、それぞれの学校で学んだことを生かした仕事に就く人が多いです。

④ 就職

- ・就職を希望する場合にはハローワークを通して斡旋してもらいます。
- ・ハローワークから学校へ求人票が送られてきます。希望先が決まったら、ハローワークに応募書類を提出し、就職試験（面接など）を受けます。
- ・選考（就職試験）が1月上旬にあるため、就職を希望する場合も進学と同様に準備を進めることになります。
- ・就職者に不利な扱いや不要なトラブルを避けるために、原則として、ハローワークを通して手続を行ってください。

8. 東京都立学校入学者選抜及び私立学校入学試験について

(1) 都立高校 応募資格：都内に住所を有し、入学後も都内から確実に通学する者

◆都立高校の入学者選抜には、推薦に基づく選抜（以下推薦入試）と学力検査に基づく選抜（第一次募集・分割前期募集・分割後期募集・第二次募集）があります。なお、学力検査によらない選抜を行う学校もあります。

○推薦入試

- ・志願する都立高校を第1志望とする者のための選抜です。つまり、合格したら必ず進学することを前提として応募するので、辞退できません。また、受検の辞退もできません。
- ・生活・学習態度が推薦するにふさわしい中学生であると判断され、中学校長の推薦を受けた生徒が応募できます。
- ・都立高校の推薦入試には、一般推薦と文化・スポーツ等特別推薦の2種類があります。

① 一般推薦

- ・出願は出願サイト上の入力にて行います。入学考査料はクレジット決済もしくは納付書による納付となります。納付書による納付の場合、領収証書の画像を出願サイトにアップロードします。
- ・その他に調査書、自己PRカード、一般推薦書を提出します。
- ・選考は各都立高校があらかじめ定めた選考方法に基づき、調査書、個人面接、小論文または作文等の検査を総合した成績、入学願書による志望及び都立高校長が必要とする資料によりおこなわれます。集団討論は必要と判断した都立高校において実施されます。

<集団討論とは>

検査官3名に対して受検生5～7名で、与えられたテーマに対して話し合いを行います。時間は30分程度が標準的です。テーマについて自身で考える時間が2～3分与えられます。形式としては討論というよりも、お互いに意見を出し合うというケースが多いです。司会は検査官が行ったり、受検生の中から選出したりと各学校によって様々です。討論に積極的に参加しているか、他人の発言がきちんと聞いているか、自分の発言が課題や議題から逸脱していないなどがチェックポイントになっています。

② 文化・スポーツ等特別推薦

- ・各都立高校の個性化、特色化を推進するため、卓越した能力を持つ生徒の力を評価選抜する推薦入試です。
- ・同じ高校の一般推薦を受けることができます。
- ・出願方法は一般推薦と同様です。その他に調査書、自己PRカード、文化・スポーツ等特別推薦書を提出します。
- ・選考は、各都立高校があらかじめ定めた選考方法に基づく総合成績でおこなわれます。
- ・文化・スポーツ等特別推薦には出願の基準がありますが、近年は「都大会出場」といった実績重視ではなく、「中学校のバスケットボール部等で活躍した者」と基準が変更になっており、希望すれば受けられる形となっています。

○学力検査に基づく選抜（以下、一般入試）

① 第一次募集・分割前期募集

- ・受験教科は、5教科（国、数、英、社、理）です。英語スピーキングテストの結果も点数に入ります。その他に、面接や作文または小論文、実技検査を実施する学校もあります。
- ・学力検査と調査書の点数比率は「7：3」です。
- ・調査書、入学願書を提出します。一般入試に面接がある場合は、出願時に自己PRカードも提出します。（なお、一般入試に面接がない場合は、合格後に自己PRカードを高校に提出します。）

- ・調査書点（内申点）は学力検査を実施する教科の評定を1倍、学力検査を実施しない教科の評定を2倍して、算出します。
- ・学力検査において、あらかじめ学校が指定する教科の配点に比重をかけた「傾斜配点」を実施する学校、「学力調査問題の自校作成」など、特色ある入試を実施する学校もあります。
- ・令和6年度入試より、男女別定員は撤廃され、男女合同定員になりました。

② 分割後期募集

- ・第二次募集期間内に分割後期募集を行います。

③ 第二次募集

- ・第一次募集後、募集人員に達しない学校では、第二次募集を行います。
※全日制課程の分割後期募集、二次募集は・学力検査と調査書の点数比率は「6：4」です。

(2) 私立高校

- ・建学の精神や教育方針が学校ごとに違い、個性的な教育活動を展開しています。
- ・都立高校のように共学校ばかりではなく、男子校や女子校、男女別学、大学の附属校などいろいろな学校があります。
- ・ユニークな学科や充実した施設を特色としている学校もあります。
- ・私立高校では、学費の面で十分に理解しておくことも必要です。
- ・推薦入試や一般入試の制度や方法・基準・条件などは、学校によってさまざまです。保護者向けの説明会で説明されることが多いので、説明会に積極的に参加して調べておくことが大切です。
- ・学校によっては、事前の説明会や体験入学に出席することを推薦や併願優遇制度を利用した入試での出願の条件にしている学校もあります。
- ・都立高校のように学校で一括して受験願書などは用意しませんので、各自で学校案内や受験用の資料を取り寄せていただくこととなります。また、出願も、書類を直接高校に持参する形態の学校は少なくなってきており、ほとんどの学校が Web 上で必要事項の記入をおこない、書類を郵送するという手順をとっています。
出願の時期や手続き方法をしっかりと確認しておいてください。

○ 推薦入試

- ・第一志望の学校であること、つまり、必ず進学することを約束して応募するので、辞退できません。合格したら必ず入学することになります。
- ・各私立高校が示す成績の「基準」や「条件」を満たしていることと、生活・学習態度が推薦にふさわしい中学生であると判断され、中学校長の推薦を受けた生徒が応募できます。
- ・入試は1月の早い時期に行われ、面接と作文が中心です。学校によっては適性検査（主に国、数、英）を行う場合もあります。一般受験より合格しやすいという利点もあります。

私立高校推薦に関する手続きは、12月中旬に中学校と高校の先生で行う「入試相談」で、推薦受験できるかどうかを確認しますので、11月、遅くとも12月の面談で意志が決定していなければなりません。そのためには、必ず事前（遅くとも11月中）に高校との個別相談を済ませておくことが大切です。

○ 一般入試

- ◆私立高校の一般入試には、併願優遇制度を利用した入試と、併願優遇制度を利用しない入試があります。

併願優遇制度を利用した入試

- ・一般入試より合格しやすいという利点があります。
- ・志望順が上位の学校が不合格だった場合、必ず入学することが、併願優遇制度を利用し合格した高校との約束となります。

- ・志望順が上位の学校は一般的には都立高校ですが、他の私立高校も志望順が上位の学校として受験できる学校が増えてきています。
- ・学力検査を受けます。多くの学校は3教科（国、数、英）です。面接試験をする学校もあります。
- ・合格した場合、都立高校（一次・前期）の発表まで入学金の納入を待ってくれる学校が多いです。
- ・私立高校の推薦入試と同じく、成績の「基準」や「条件」があります。その「基準」や「条件」は推薦より高くなります。

推薦や併願優遇の基準の例

（※素内申とは…評定をそのまま合計したもののこと）

- ① 3年の2学期の素内申が9科で34以上、かつ1がないこと
- ② 3年の2学期の素内申が3科で10以上
- ③ 3年次の遅刻・欠席が5日以内であること

以上①②③のすべての条件を満たすこと ただし、漢検、英検または数検3級取得者は内申に+1できるものとする

一般入試

- ・学力検査を受けます。多くの学校は3教科（国、数、英）です。面接試験をする学校もあります。
- ・合否の判定は、高校によって、学力、面接、中学校での学習状況（調査書）や特技などを重視する高校など様々です。しかしながら、最終的な判定は、試験の得点が大きく影響します。
- ・どの高校でも、いくつでも受験することができますが、合格した時の納入金を他の学校の発表まで待てないことや、学校によっては、推薦や併願優遇で多くの生徒をとるため、学力のレベルが高くなるなど注意する点もあります。

◇推薦を利用する際の留意事項

都立・私立の両方とも推薦入試は学校間（第九中学校と高等学校など）の信頼関係によって成り立っています。第九中学校では、次のような判断基準で進めていきます。

（1）本校の推薦方針

- ① 九中における三年間を通じて、意欲的に学習、学校生活に取り組み、義務教育終了時に成長が実感できることに加え、志望校においても卒業までしっかりとした学校生活を送ることが期待できること。
- ② 志望している学校が第一希望で、合格したら必ずその学校に入学すること。
- ③ 志望校が求める生徒像や推薦基準に合致していること。
 - ・基本的な生活習慣の定着に加え、具体的に出席状況の基準を示している学校もあります。
 - ・学習面での基準は、評定の3科・5科・9科合計の数値でしめされていることが多いです。
 - ・特別活動や部活動、各種検定等の実績を考慮する学校もあります。

（2）推薦希望者については、学校全体で協議し、最終的に校長が承認します。

- ・推薦制度を利用される保護者の皆様には、校長宛に提出していただく「推薦願」をお渡しします。その書面には、高校名や科、コースの明記だけでなく、「卒業までの中学校生活と入学後の高校生活において全力で取り組むことを約束します」という一文があり、「宣誓書」の意味もあるということをご理解ください。

9. 学校説明会・見学会・公開授業・体験入学について

- ・受験希望者やその保護者を対象としたものです。
- ・中学校を通して申し込む場合は早めに申し出てください。最近は、インターネットでの申し込みをおこなっている学校がほとんどです。こまめにホームページを見て各自で予約をしてください。
- ・関心ある学校の説明会などへは、できるだけ参加して直接情報を得るようにしてください。
- ・私立高校だけでなく、都立高校でも実施しています。
- ・私立高校の推薦や併願優遇を希望する場合、個別相談を行う必要がある学校がほとんどです。その高校を受験する可能性が少しでもあれば、個別相談会に参加してください。
- ・学校説明会・見学会・個別相談などには、生徒だけでなく、保護者と一緒に行ってください。
- ・参加する場合、九中の標準服で行きましょう（スカート丈や髪など身だしなみを整える）。上履き、生徒証、筆記用具等を持参してください。また、公共の交通機関を利用しましょう（自転車では行かない）。真剣な態度で参加し、友達に付き添いで参加することはしないでください。また、挨拶や言葉遣いに注意しましょう（訪問した学校の先生は皆さんのことをよく覚えています。第一印象は大切です。すでに面接が始まっていると思ってください）。
- ・相談に乗っていただいた担当者の方のお名前は必ずメモしておくようにしてください。名刺をもらった場合には大切に保管してください。

10. 奨学金制度

高等学校対象の一部を下記に記載しました。貸付型と給付型（返済なし）や重複しての交付は受けられないもの、申し込み期限が様々であることにご注意ください。今後も案内が届き次第、紹介していきます。さらに詳しく知りたい方やご質問等ありましたら各担任もしくは第3学年教員までご連絡ください。下記に記載したもの以外でも対応いたします。

※下記に記載している内容は現時点のものです。変更の可能性があります。

① 東京都育英資金貸付事業（窓口は中学校）

- 1 対象 高等学校、専修学校（高等課程）進学予定で、勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な生徒
- 2 貸付金（月額） 国公立：18,000円 私立：35,000円

② あしなが育英会（書類はホームページからダウンロード）

- 1 対象 病気や災害で親を亡くした、または親が1級から5級の障がい認定を受けている家庭の生徒
- 2 奨学金（月額） 一律30,000円給付

生徒・保護者のみなさまへ

令和6年度

申請により授業料の負担が軽減されます



授業料負担軽減額は

①国の就学支援金

②東京都の授業料軽減助成金(都民対象)

合わせて最大で

48万4,000円

- ①と②の内訳は、申請者の所得により、異なります。
- 区分Aに該当する場合は②のみ、
区分B・Cに該当する場合は①と②それぞれ別に申請が必要です。
- どの区分に該当するかを判別するため、
全ての申請者について所得の確認が必要となります。

区分	所得のある保護者が1人	所得のある保護者が2人	授業料の負担軽減(年484,000円まで※1)	
世帯年収(目安)の区分 A B C	約910万円以上	約1,090万円以上	②都の授業料軽減助成金 6~7月申請 484,000円 (それぞれ別に申請が必要)	
	約910万円未満 ↓ 約590万円以上	約1,090万円未満 ↓ 約740万円以上	①国の就学支援金 4月・7月申請 118,800円	6~7月申請 365,200円
	約590万円未満	約740万円未満	4月・7月申請 396,000円	6~7月申請 88,000円

※1 授業料の負担軽減額は、484,000円の範囲内で、在学校の授業料額(保護者が負担した金額)が上限です。

※2 年収目安は、保護者1人にのみ給与収入がある4人世帯(夫婦と子2人)及び保護者2人に給与収入がある5人世帯(夫婦と子3人)をモデルとした場合です。

年収は目安であり、区市町村民税課税標準額等に基づき審査を行います。

11. 今年度の入試の日程等について（参考）

※私立高校の今年度の入試日程はまだ確定していないため、昨年度の情報に掲載しています。

1. 都立高校入学者選抜

(1) 推薦入試【全日制、昼夜間定時制の一部のみ】

①出願日	令和7年1月9日（木）～16日（木）
②面接など	令和7年1月26日（日）・27日（月）
③合格発表	令和7年1月31日（金）
④推薦基準	<ul style="list-style-type: none"> ・その都立高校を第一志望とする者 ・出身中学校長が推薦する者
⑤募集人数	普通科定員の20%以下 専門学科は30%（商業科は20%）
⑥選抜方法	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書（各科の観点別評価または9教科の評定を点数化する） 内申点の割合は全体の50%まで（上限） ・集団討論、個人面接 ・小論文または作文、実技検査などから各学校が選んで実施 <p>※自己PRカードは各高校が提示する「本校の期待する生徒の姿」をもとに受検生本人が記入し、出願の際に提出する。面接の資料として使われるが、点数化はされない。</p>

(2) 一般入試【第一次募集、分割前期募集】

①出願日	令和7年1月30日（木）～2月5日（水）
②学力検査	令和7年2月21日（金）
③合格発表	令和7年3月3日（月）
④選考方法	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書（各教科の観点別評価または9教科の評定を点数化する） ・学力検査の得点（面接、小論文、作文、実技検査などがある場合もあり） <p>※調査書と学力検査、英語スピーキングテストの結果、面接なども含めた総合成績で合否が決まる。</p> <p>※自己PRカードは各高校が提示する「本校の期待する生徒の姿」をもとに受検生本人が記入する。面接を実施する高校のみ、面接資料として活用するが、点数化はしない。面接がない高校は、合格決定後に提出する。</p>
⑤その他	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジスクールでは学力検査を行わず、個人面接や小論文、作文などで選考を行う。

(3) 一般入試【第二次募集、分割後期募集】

①出願日	令和7年3月6日（木）
②学力検査	令和7年3月11日（火）
③合格発表	令和7年3月14日（金）

(4) 定時制【第二次募集】

①出願日	令和7年3月24日（月）
②学力検査	令和7年3月27日（木）
③合格発表	令和7年3月28日（金）

◆第一次募集・分割前期募集において学力検査問題を自校又はグループで作成する高校（昨年度の状況）

(1)全日制

高校名及びグループ名	実施教科
日比谷、戸山、青山、西、八王子東、立川、国立、新宿、墨田川、国分寺	自校で作成した学力検査問題3教科（国語、数学、英語）及び都立高校共通問題2教科（社会、理科）で行う。
国際	自校で作成した学力検査問題1教科（英語）及び都立高校共通問題4教科（国語、数学、社会、理科）で行う。

(2)定時制

高校名	実施教科
農産	自校で作成した学力検査問題3教科（国語、数学、英語）を、各25分で行う。
八王子拓真（一般枠）	自校で作成した学力検査問題3教科（国語、数学、英語）を、総合して50分で行う。

2.私立高校入試（都内）

(1)推薦入試

①出願日	令和6年1月15日（月）頃～
②面接など	令和6年1月22日（月）頃～
③合格発表	令和6年1月22日（月）・23日（火）頃～
④推薦基準	<ul style="list-style-type: none"> ・その私立高校を第一志望とする者（合格したら必ず入学すること） ・出身中学校長が推薦する者 ・その私立高校が定める推薦基準を満たしている者 ※2学期末の9科、5科、3科などの素内申合計点や、3年間の欠席、遅刻、早退日数などについて基準がある。
⑤選抜方法	<ul style="list-style-type: none"> ・調査書（評定） ・面接、作文等 ・実技や特技に関する記録及び証明書
⑥その他	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の検査を行う学校も増えてきている。 ・推薦入試で不合格でも、一般入試での受験は可能。 ・基準に到達していれば合格の可能性が高いが、単なる応募資格の一つとして扱い、不合格を出す学校もある。 ※学校説明会に参加していることを推薦基準にしている高校もある。推薦に限らず、受験校は必ず訪問すること。

(2)一般入試

①出願日	令和6年1月24日(水)～2月6日(火)頃
②試験日	令和6年2月10日(土)～14(水)頃
③合格発表	令和6年2月10日(土)～
④選抜方法	・学力試験重視(3科がほとんど) ・面接、作文がある場合もあり ・調査書(評定)

※私立高校の入学試験については、入試日程、形態が各学校で異なります。入試要項が出ましたら必ず確認をしてください。

12. 進路年間計画

①進路希望調査

進路希望調査は、3回実施する予定です。学校ではこの希望調査をもとに面談を行い、進路指導を進めていきます。家族で話し合い、進路について考える機会にしてください。

- ・第1回 7月 1日(月) 締切 夏休み三者面談の資料とします。
- ・第2回 10月22日(火) 締切 11月三者面談の資料とします。**推薦・併願優遇希望書**を兼ねます。
- ・第3回 11月26日(火) 締切 12月三者面談の資料とします。進路希望の最後の確認になります。

②領域別診断テスト

定期考査とは別に、5教科の学力テストを3回行います。定期考査は3年生の授業を中心に出題するのに対し、このテストは1・2年生の範囲も含め、入試の内容を考慮した出題になっています。校内だけでなく、広い範囲で多くのデータを参考に成績を処理しますので、進路指導に適切に活用していきたいと思えます。

第1回：6月17日(月) 第2回：10月17日(木) 第3回：11月19日(火)

③年間予定

年間予定につきましては別紙をご確認ください。なお、入試日程につきましてはまだ確定していないため、昨年度の日程を参考に想定したものをいれさせていただきます。

第1回 進路希望調査

配布 6月24日(月) 提出期限 7月1日(月)

3年 組 番 氏名

保護者氏名

印

1 中学校卒業後の進路について、現在どのようにお考えですか。希望する順番に に番号を記入してください。

(候補に入らないものには番号を付ける必要はありません。)

具体的な学校名等が決まっていたらご記入ください。

【本人の考え】

公立高校進学 (都道府県立)

() 高校

() 高校

私立高校進学

() 高校

() 高校

国立高校進学

() 高校

専修学校・各種学校進学

() 学校

就職

【保護者の考え】

公立高校進学 (都道府県立)

() 高校

() 高校

私立高校進学

() 高校

() 高校

国立高校進学

() 高校

専修学校・各種学校進学

() 学校

就職

2 推薦・併願優遇の希望について○を付けてください。(複数の選択も可能です。)

ア 推薦受験を希望する

イ 併願優遇受験を希望する

ウ 希望しない

※受験希望校が決まっていなくても結構です。

3 就職が第1希望の場合、どのように職を選びますか。○を付けてください。

ア ハローワークと学校を通して決めたい

イ 家庭で決める(家業を継ぐ場合も含む)

4 進路についてのご質問・ご要望がありましたら、お書きください。

第2回 進路希望調査

配布 10月11日(金) 提出期限 10月22日(火)

3年 組 番 氏名

保護者氏名

印

いよいよ、志望校決定の時期が近づいてきました。1学期の評定や2学期の中間考査の結果を考慮に入れて、現時点での希望をお書きください。また、私立の推薦と併願優遇での受験を希望する場合は、現時点での受験を希望する学校をお書きください。この用紙が推薦・併願優遇希望書を兼ねます。希望する可能性がある場合は必ず推薦または併願優遇欄に○を付けてください。なお、この希望調査にもとづいて、11月に進路面談を行います。

1 進学希望

順位	学 校 名 (正式名称で記入)	科・コース	利用を考えている形態		
			(推薦) (単願)	(併願) (併優)	(一般)
例	都立 ○ ○ ○ ○ 高等学校	○○○ 科 ○○○ コース	○		
1	立 学校	科 コース			
2	立 学校	科 コース			
3	立 学校	科 コース			
4	立 学校	科 コース			

サンパル

<利用を考えている形態についての記入上の注意>

- ・公立(都道府県立)高等学校の場合、推薦受験希望の場合は「推薦・単願」、学力検査による受験(一般入試)希望の場合は「一般」の欄に○を付けてください。(両方に○を付けても構いません。)
- ・私立高等学校の場合で、推薦受験(単願)希望の場合「単願・推薦」、併願優遇希望の場合「併願・併優」、一般受験希望の場合は「一般」の欄に○を付けてください。

2 就職希望の場合 進学ではなく、就職を希望 する ・ し ない

【するに○を記入された方へ】どのように職を選びますか。○を付けてください。

- ア) ハローワークと学校を通して決めたい イ) 家庭で決める(家業を継ぐ場合も含む)

3 進路についてのご質問・ご要望がありましたら、ご記入ください。

第3回 進路希望調査

配布 11月18日(月) 提出期限 11月26日(火)

3年 組 番 氏名

保護者氏名

印

受験校を決定する時期となりました。最後の調査になります。2学期の中間考査・期末考査、領域診断テストなどを考慮に入れて、家族でよく相談しながら、進学希望校名・就職希望事業所名など誤りのないよう具体的に記入ください。なお、この希望調査にもとづいて、最終の三者面談である12月の三者面談を行います。

1 進学希望

順位	学 校 名 (正式名称で記入)	科・コース	利用を考えている形態 ※どれか1つを選択		
			(推薦) (単願)	(併願) (併優)	(一般)
例	都立 ○ ○ ○ ○ 高等学校	○○○ 科 ○○○ コース	○		
1	立 学校	科 コース			
2	立 学校	科 コース			
3	立 学校	科 コース			
4	立 学校	科 コース			
5	立 学校	科 コース			

2 就職希望

事業所名	職 種	備 考

3 進路に関して質問や不安な点等があれば、お書きください。

文京区立第九中学校
校長 窪 宏孝 様

推 薦 願 (公立用)

() 立 _____ 高等学校

_____ 科・コース

上記の学校の受験に関し、学校推薦を希望します。なお、推薦を受けるにあたり、次のことを遵守いたします。今後、ふさわしくない行動があった場合には、推薦取り消しに同意いたします。

1. 特別な事情がない限り、推薦願提出後に受験校の変更をしないこと。
2. 推薦を受けた者としての自覚を持ち、中学校卒業まで推薦にふさわしい学校生活を送ること。
3. 高校進学後も、文京九中の卒業生として自覚を持った高校生活を送ること。
4. 内定（合格）を受けた場合、他校を受験しないこと。

志望理由（具体的に本人が記入）
自己PR（各教科・総合の学習など学習面で努力したこと） <div style="text-align: center; font-size: 2em; color: blue; font-weight: bold; margin-top: 20px;"> サンプル </div>
自己PR（委員会・部活動・学校行事など生活面で努力したこと）
保護者記述欄

3年 組 番 生徒氏名 _____

保護者氏名 _____ 印

文京区立第九中学校
校長 窪 宏孝 様

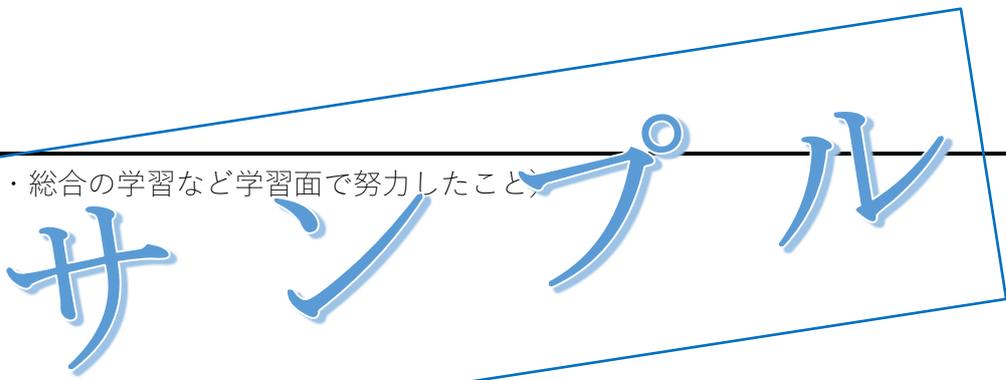
推薦願（私立用）

私立 _____ 高等学校
科・コース _____

上記の学校の受験に関し、学校推薦を希望します。なお、推薦を受けるにあたり、次のことを遵守いたします。今後、ふさわしくない行動があった場合には、推薦取り消しに同意いたします。

1. どのような事情があっても、推薦願提出後に受験校の変更をしないこと。
2. 推薦を受けた者としての自覚を持ち、中学校卒業まで推薦にふさわしい学校生活を送ること。
3. 高校進学後も、文京九中の卒業生として自覚を持った高校生活を送ること。
4. 内定（合格）を受けた場合、他校を受験しないこと。

志望理由（具体的に本人が記入）
自己PR（各教科・総合の学習など学習面で努力したこと）
自己PR（委員会・部活動・学校行事など生活面で努力したこと）
保護者記述欄



3年 組 番 生徒氏名 _____

保護者氏名 _____ 印

文京区立第九中学校
校長 窪 宏孝 様

併 願 優 遇 受 験 願

私 立 _____ 高等学校
_____ 科・コース

上記の学校の受験に関し、併願優遇受験を希望します。なお、併願優遇を受けるにあたり、次のことを遵守いたします。

1. 併願優遇受験願提出後に、受験校の変更をしないこと。
2. 中学校卒業まで推薦基準に準じた学校生活を送ること。
3. 高校進学後も、文京九中の卒業生として自覚のある高校生活を送ること。
4. 推薦等で合格した場合、それ以降の受験はできません。その場合の受験料等に関しては保護者が責任をもって高校側と確認して、指示に従うこと。
5. 第一希望（特別に第二希望として確認できている学校を含む）の高等学校に合格できなかった場合は、必ず上記の併願優遇校に入学手続きを済ませること。

志望理由（具体的に本人が記入）

サンプリ

保護者記述欄

3年 組 番 生徒氏名 _____

保護者氏名 _____

印 _____